

剣道あまくさ

第5号
発行所
〒863-0033 天草市東町3
天草市総合武道館
天草剣道連盟

全日本剣道連盟有功賞並びに青少年剣道教育奨励賞の受賞を称えて

天草剣道連盟会長 花里 昌直



平成二十二年度の全日本剣道連盟有功賞を天草剣道連盟相談役の浦田政八先生が受賞されました。先生は旧制中学、師範学校で剣道を修行されてより、天草郡市の学校でいち早く剣道部を創設し、少年剣士の指導育成を始められ、昭和六十一年退職されるまで、歴任する学校または地域で、剣道を通じての青少年健全育成と剣道の普及促進に努められました。又、昭和三十三年には天草郡市剣道連盟道場（港町にあった昔の天武館）建設に向けて、堀田藤八先生、松田正忠先生、長島安喜先生の下で理事として奔走西走し、念願の武道館の竣工に寄与され、永くその恩恵を現在に至るまで蒙っています。平成五年からは天草郡会長として、また平成八年より

剣道有功賞を受賞して

天草剣道連盟相談役 浦田 政八



平成十八年までは天草郡市剣道連盟会長として、剣道の普及発展に貢献され、尚現在も相談役としてご尽力いただいております。私も高校時代より先生に師事し、薫陶を受けて今があると感謝しております。常に温厚篤実にして高潔なお人柄で、人を愛し、人に慕われ、時には飲酒酩酊もされませんが、いざ防具を着けて道場に立たれた先生は、今でも踏み込めぬ厳しさです。先生の永年に亘るご功績で、全日本剣道連盟有功賞を受賞されましたことを、天草剣道人として、心よりお慶び申し上げますとともに、米寿はもとより白寿・皇寿まで健康でのご指導頂きたいと念じています。あわせて、青少年剣道教育奨励賞を、平成二十一年度の天武館に続き、天草少年剣道クラブ青年会が受賞されました。永年に亘る指導育成に尽力された先生方に感謝申し上げますとともに、今後の更なるご活躍を祈念します。剣の理法の修練による人間形成の道を忘れず、互いに研鑽しつつ、会員諸氏の活躍により天草剣道連盟が益々発展することを念願し、受賞祝賀の挨拶とします。

このたび全剣連より剣道有功賞を受賞することができましたことは、身に余る光栄と深く感謝しております。これは恩師、先輩のご指導ご支援、天草剣道連盟花里会長のご推薦、会員諸兄のご援助の賜と厚く御礼申し上げます。私は平成十四年に全剣連より感謝状を頂いており、この度の剣道有功賞、夢想もしない受賞に感激しております。

平成二十三年一月二十三日、県下小中学生剣道基本競演会開会式で、平成二十二年度全日本剣道連盟有功賞のメダルとバッジ、それに顕彰状の伝達式があり出席しました。その上、県剣道連盟より祝賀会を開催していただき、県下の諸兄の出席を賜り、また天草剣道連盟よりも二十有余名の剣友諸兄に出席して頂き誠にありがとうございました。この後も諸兄にご迷惑をおかけすることが多いと思えますが、この度の受賞を飾ります。



天草出身者と剣道

後日わかったのですが、歴代の主将は天草の出身者でした。私が一年生時代の主将は五年生の田川（野口）虎八先輩、四年生時平先輩、三年生鈴木芳春先生、二年生は天草出身者はおらず、一年生は私一名でした。田河先輩の前の主将は平野亮也先生でした。

部活動

（なお、浦田政八先生には受賞を記念して「私の剣道人生」と題打つてのご寄稿をお願いしたい。後進の私たちが知り得ない剣道の歴史をうかがい知る貴重なものである。浦田先生には厚く御礼申し上げます。）

（なお、浦田政八先生には受賞を記念して「私の剣道人生」と題打つてのご寄稿をお願いしたい。後進の私たちが知り得ない剣道の歴史をうかがい知る貴重なものである。浦田先生には厚く御礼申し上げます。）

目としまして、後輩の指導と剣道の普及発展のために微力を尽くす所存でございますので、これまで以上のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。受賞の御礼といたします。

実戦的な剣道

「剣道くまもと（道）」にも書いていますが昭和十九年には軍の指示により他流試合の稽古等々実戦的な稽古でした。剣道では袈裟切り可、胸の突き可、足はらり可、体当たりで場外可、組み打ち可、相手をなげとばし面をはずす可、試合はすべて一本勝負、現在では想像もできない危険な剣道でありました。私は市内の先生の指導で二刀流との試合、なぎなたやくさり鎌の試合稽古等々、攻防の理と実技を習いました。これからは私の剣道人生で忘れられない思い出です。下宿生活二年間で実力を養い学生では少ない剣道三等の免許を授けられました。

私の剣道人生

師範学校での戦中、戦後

部活動と道場通い

師範学校で始めたのは熊本師範学校一部一年に入学と同時に剣道部に入学したのが剣道人生の第一歩である。剣道部に入部した一年生で初心者には私一人であった。他の同級生はそれぞれ剣道クラブで少年剣道で修練した者ばかりで初段程度であった。私は防具の付け方も知らず、竹刀の握り方も知らず周囲から笑われ、はずかしくて退部届を提出しましたが、天草出身者は私一人であるということ退部は許されませんでした。

師範学校の武道場

当時の武道場は、現在は熊本大学付属中学校の敷地になり取り壊されてしまったが、現在では考えられない位粗末な建築でした。風通しがよく、夏は暑く、冬は寒い野外と同様で、ただ雨が降らないといった具合で、腰板の上と下とは開け放してあり、冬の雪の日などは外から吹き込む雪片が道場の床板に積もる。出入自由、掘っ立て小屋に少し手を加えた程度で、戸締まりなどしなくてもよかつたのです。私は剣道道場はどこのように建物であると思っていて大して苦痛も感じませんでした。

終戦後生活

終戦となり剣道禁止となり、私はバレー部に属しながら、体操部、水泳部、野球部等々、種々な経験をしながら卒業。大浦国民学校、大橋中学、本渡北小学校に勤務しました。本渡北小学校に勤務と同時に堀田藤八、松田正忠会長に剣道と人生哲学を学びました。以上が私の剣道生活の始めで、両先生の教えを守り現在の私が存在しています。多くの先生、先輩、同輩に感謝、感謝、クク。